



# 2010 年秋 HOME VISIT PROGRAM

台風の接近に不安を感じながらも、10月30日のJICA研修員受け入れの日を無事に迎えました。約束の1時半に皆さん集合し、matching の後、それぞれの家庭へと向かって行きました。以下は受け入れをしてくださった6家庭の方々の感想です。毎回繰り広げられる様々のドラマ、今回は一体どんな出会いだったのでしょうか？大切な一頁をめくるごとく、どうぞ皆様もお楽しみください。



## <Mさん>

受け入れしました研修員のNさん（モザンビーク）は、37歳で3人の男の子のお子さんのパパだったので、我が家の2歳の娘の扱いもとてもお上手で、すぐに打ち解けることができました。



日本食は大体好きとのことでしたが、甘い煮物がとても奇妙に感じるとのことでした。お互い英語がそんなに得意ではなかったのですが、写真や地図などの媒体を使って、あきらめずコミュニケーションを続けました（笑）

帰られる際にはメールアドレスを交換し、英語のセンテンスはhello!だけでも、これからお互いの写真を送りあって連絡を取り合いましょうと約束しました。帰られてからはご丁寧にお電話とメールをいただきました。3週間後に帰国されるそうですが、是非写真のやり取りを続けたいと思います。

## <Uさん>

イラクのAさんをお迎えしました。心臓外科の先生で、イラクでは非常にハードな仕事をこなしておられるようです。am8:00~pm10:00というような勤務も珍しくはないという状況のようです。

日本では、東京や京都や神戸を訪ねたそうです。来週は、広島を訪問するそうです。JICAのシステムは彼らにとっては有り難いようです。

イラクの古代文明であるメソポタミア文明やバビロニアについては思い入れがあるようですが、何と言っても、やはりムスリムの国で、偉大なる神アッラーとその使徒であるムハンマドの話になると熱がこもっていました。彼自身はシーア派らしいですが、スンナ派もベースは同じであると言っていました。

自分たちにとって、アッラーが唯一の神であるが、キリスト教、仏教、ユダヤ教などの信仰については、それぞれ敬意を持って接しているつもりであると強調していました。



私自身が、現在、ムスリムについて勉強中ですので、多くのことを彼から教えてもらいました。

<Sさん>

心配されていた台風もそれて、良かったですね。

今回も、つかの間のティータイムでしたが、25歳のモロッコの男性Aさんが来て下さいました。



とても真面目な、好青年で、ご自分の家族や住まいやラクダによって海辺を観光している写真などをファイル帳にして、そしてそれを丁寧に説明していただいて、しばしモロッコツアーを楽しみました。



モロッコでも、日本の漫画がとても人気があって、彼が中学生時代に読んだものの中で、一番のお気に入りには '一休さん' でした。

そしてアラビア語と日本語で '一休さん' のテーマソングを歌いあって大いに盛り上がりました

<Wさん>

我が家は会員のNさんの協力を得て、インドネシアの学生(JICAに居住)を迎えました。

JICAから我が家に行く途中に神社があるのですが、紅葉もまだあまり興味がある様子でもなかったです。家では抹茶を入れたのですが、とても美味しいと喜んで飲んでくれました。

とりたててこれとういこともしませんでした。パソコンの you-tube でインドネシアの祭りや踊り、結婚式の様子を見ながら、いろいろ国のことをたくさん話してもらいました。フレンドリーで話好きであつという間のとても楽しい3時間半でした。学生で滞在期間も長いのでまたすぐに会う約束をして別れました。

嬉しいことですが、彼が滞在中は親しく行き来することになりそうです。もちろん帰国した後はインドネシアに遊びに行きたいと思っています。いい子(若く自分の子供くらいの年齢です)と知り合いになるチャンスをいただいたこと感謝しています。ありがとうございました。

<Oさん>

イラクのCさんのホーム ヴィジットは、大らかでユニークなものでした。何しろ如才なく、話好きの紳士と云うのが第一印象で、これが、心臓外科を専門にする医者であれば、会うだけでも”病癒える”感じでした。

我家に到着し車を降りるや否や、近所の環境いいねえ、わっ、庭も広いし素晴らしいと、御挨拶、恐れいりました(?!)

男女各4人、計8人兄弟の三番目?位の孝行息子と云った感じでしょうか。両親、兄弟全部夫々に幸せな家庭を持ち、平和な雰囲気の写真を沢山見せてもらいました。





自国では、山の雰囲気をごよなく愛し、車で6時間位の山の台地にドライブ、家族たち大勢でバーベキューを楽しむのが、好いレクリエーションとて、写真達の半数は占めていました。何しろUSBレコーダーに、最近の家族写真を、多分全部収めて、日本に持って来ている感じです。首都バグダッドに住むのは、爆弾テロの危険多く、Cさん 只一人。他の家族たちは、バグダッドの外、田舎に移り住んでいるとのこと。平和で、幸せな家族行事イベントをみんなで、盛り上げている様子です。

我家としては、日本の伝統文化の代表として、折り紙を披露。6歳の息子と7歳の娘を思い…カブト(a warrior helmet)と ツル(a crane)を、一緒に折って楽しみました。お土産にしたいと言われるので、袋に入れて渡しました。日本は、平和で且つ、素晴らしい国だと、しみじみ言っていたのが心に残りました。

尚、彼のJICA研修は国立循環器病研究センターにて、毎日、心臓外科手術室への登院だそうです。

### <Sさん>

一度はHome Visitを引き受けたいという思いがありました。私は三度のMinneapolis行きで毎回、すばらしい家庭でHome Stayしました。そのとき受けたもてなし方なども思い出しながら接してみました。お手伝いに平田さんも加わってくださいましたので、心強かったです。

私が引き受けた2 visitors, ひとり エジプト人(34歳既婚)。大学教授で観光&ホテル学部担当。話題が豊富で多くのことを教わりました。まず、エジプトを持参のパンフレットで説明、歴史や女性の生き方なども。ヒエログリフ(聖刻文字、神聖文字)、アラビア語で我々の名前も書き示してくれました。イスラム教については、一日五回するというお祈りの一回を真剣にして見せてくれました。日本の文字、陶芸、家系図、折り紙などなにごとも興味を示しメモを取りながらの会話でした。

もうひとりの方は、モザンビーク(35歳独身)。化学環境問題関連、四国を3日間かけて視察してきたばかりと。こちらも地図やパンフレットで説明、二人とも、紳士的で礼儀正しく、知的好奇心の旺盛さにはびっくりしました。

お約束の5時半、あわててJICAへ送りました。そして、8時すぎには、お礼のEmailが。  
We should thank you 100times because I really wanted to see Japanese at home and I felt as if we are one family.

本当に喜んで頂けたんだと、私もうれしく、ほっとしました。終わったいま、予想以上の充実感を味わっています。

次に、JICA参加者の皆様からの感想の一部をご紹介します。

**I have visited a Japanese family. It was simply a wonderful experience. I realized how hospitable and nice Japanese people are. I enjoyed it so much because it made my visit to Japan more exciting. The atmosphere into Japanese home is warm.**

**It was very wonderful program for me to visit Japanese home, good reception and great hospitality. I like to visit again because the time was very short.**

**How the family was polite in discussion even if the questions were so specific. It reflects that Japanese are very educated people and have the urge to know much about other people.**

いかがだったでしょうか？参加された J I C A の皆様と受け入れされた会員の充実した感想を読む時、その臨場感あふれる様子に思わずワクワクしてしまいますね。どうぞ次回の home visit program もお楽しみにお待ちください。

この行事は会員皆様の「未知のことを知りたいという知的欲求」と「国際交流という名のボランティア精神」によって成り立つ行事です。どうぞ、次回は貴方のお宅で、新しいドラマの一頁を綴ってください。

